

シラバス

北はりま職業訓練センター

| 科目番号・科目名 | (1) 職務の理解 | |
|--------------------|---|--|
| 指導目標 | 研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようにする。 | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 |
| ① 多様なサービスの理解 | 3 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 介護職が働くサービス現場にどのようなものがあるか、介護保険サービスの内容とそれ以外（障害者(児)サービス等）やインフォーマルなサービスについて理解を深める。 |
| ② 介護職の仕事内容や働く現場の理解 | 3 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な居宅、施設サービス現場におけるそれぞれの仕事内容を理解する。 ケアプランの位置づけからサービスの提供にいたるまでの一連の業務の流れ、チームアプローチ、他職種との連携、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携について理解を深める。 |
| (合計時間数) | 6 | |

| 科目番号・科目名 | (2) 介護における尊厳の保持・自立支援 | |
|---------------|---|--|
| 指導目標 | 介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解させる。 | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 |
| ① 人権と尊厳を支える介護 | 6 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 人権と尊厳の保持、ICF、QOL、ノーマライゼーション、虐待防止・身体拘束禁止、個人の権利を守る制度の概要 <p>上記に関して具体的な事例を示しながら講義を行い、理解を深める。</p> <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> 身体拘束について、グループ検討・ディスカッションを行う。講師による講評により理解を深める。 |
| ② 自立に向けた介護 | 3 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 自立支援、介護予防について、具体的な事例を示しながら、概念・施策を確認する。 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> 自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアについて、グループ検討・ディスカッションを行う。講師による講評により理解を深める。 |
| (合計時間数) | 9 | |

| | | |
|-------------------------|--|--|
| 科目番号・科目名 | (3) 介護の基本 | |
| 指導目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解させる。 ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができるようになる。 | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 |
| ① 介護職の役割、専門性と多職種との連携 | 2 | <講義内容> ・介護環境の特徴について、訪問介護と施設介護サービスの違いと地域ケアの方向性について理解を深める。 ・介護に係わる職種についての知識を増やし、職種の役割とチームケアの重要性について理解を深める。 |
| ② 介護職の職業倫理 | 1 | <講義内容> ・介護職員としての倫理の必要性、社会的責任、プライバシーの保護・尊重について理解を深める。 |
| ③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント | 2 | <講義内容> ・介護における安全の確保について事故の要因と対策を中心に理解を深める。 ・リスクマネジメントと事故発生時の対応について理解を深める。 ・感染症対策の基本知識について理解を深める。 |
| ④ 介護職の安全 | 1 | <講義内容> ・介護職の心身の健康管理について、腰痛予防とストレスマネジメントを中心に理解を深める。 |
| (合計時間数) | 6 | |

| | | |
|----------------------|--|--|
| 科目番号・科目名 | (4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携 | |
| 指導目標 | 介護保険制度や障がい者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービスの利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できるようになる。 | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 |
| ① 介護保険制度 | 4 | <講義内容> ・介護保険制度創設の背景及び目的、動向を中心に、仕組みの基礎的理解、制度を支える財源・組織・団体の機能と役割について理解を深める。 |
| ② 医療との連携とリハビリテーション | 3 | <講義内容> ・医行為と介護、訪問看護、施設における看護と介護の役割・連携、リハビリテーションの理念について、内容・注意点を確認し理解を深める。 |
| ③ 障がい者総合支援制度およびその他制度 | 2 | <講義内容> ・障がい者福祉制度の理念、障がい者総合支援制度の仕組みの基礎的理解、個人の権利を守る制度の概要について、ポイントを確認し、理解を深める。 |
| (合計時間数) | 9 | |

| | | |
|-----------------------|--|--|
| 科目番号・科目名 | (5) 介護におけるコミュニケーション技術 | |
| 指導目標 | 高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションをとることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解させる。 | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 |
| ① 介護におけるコミュニケーション | 3 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割、コミュニケーションの技法・道具を用いた言語的コミュニケーション、利用者・家族とのコミュニケーションの実際、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際について、ポイントを確認し、理解を深める。 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手へ配慮したコミュニケーション技術について各自事例検討後、2人1組でのロールプレイング演習を行う。その後、講師が講評し理解を深める。 |
| ② 介護におけるチームのコミュニケーション | 3 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録の意義・目的・書き方、報告・連絡・相談の意義や留意点について、ポイントを確認し、理解を深める。 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録における情報の共有化、報告、コミュニケーションを促す環境について、ポイントを確認した上で、2人1組で記録・報告のロールプレイング演習を行う。 |
| (合計時間数) | 6 | |

| | | |
|---------------------|---|--|
| 科目番号・科目名 | (6) 老化の理解 | |
| 指導目標 | 加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解させる。 | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 |
| ① 老化に伴うこととからだの変化と日常 | 3 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・老齢期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴、老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響について、具体例を示して、理解を深める。 |
| ② 高齢者と健康 | 3 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の疾病と生活上の留意点、高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点について、ポイントを確認し理解を深める。 |
| (合計時間数) | 6 | |

| | | |
|------------------------|--|---|
| 科目番号・科目名 | (7) 認知症の理解 | |
| 指導目標 | 介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解させる。 | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 |
| ① 認知症を取り巻く状況 | 1 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの理念について具体的ケースを示し講義を行い、理解を深める。 |
| ② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 | 2 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理について、ポイントを確認しながら理解を深める。 |
| ③ 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活 | 2 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴、認知症の利用者への対応について、具体的なケースを示し講義する。 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症利用者への対応を中心にグループでの事例検討を行う。講師が講評し、理解を深める。 |
| ④ 家族への支援 | 1 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の思いについてと認知症の受容過程での援助、介護負担軽減（レスパイトケア）について理解を深める。 |
| (合計時間数) | 6 | |

| | | |
|--|---|---|
| 科目番号・科目名 | (8) 障がいの理解 | |
| 指導目標 | 障がいの概念と I C F、障がい者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解させる。 | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 |
| ① 障がいの基礎的理解 | 1 | <講義内容> ・障がいの概念と I C F、障がい者福祉の基本理念について、基本を理解する。 |
| ② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 | 1 | <講義内容> ・身体障がい、知的障がい、精神障がい、その他の心身の機能障がいについて、内容・特徴及び支援の考え方の理解を深める。 |
| ③ 家族の心理、かかわり支援の理解 | 1 | <講義内容> ・障がいの理解・障がいの受容支援、介護負担の軽減について理解する。 |
| (合計時間数) | 3 | |

| | | |
|---------------------------|--|---|
| 科目番号・科目名 | (9) こころとからだのしくみと生活支援技術 | |
| 指導目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できるようになる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得させる。 | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 |
| ア 基本知識の学習 ① 介護の基本的な考え方 | 3 | <講義内容> ・理論に基づく介護、介護福祉士の法的根拠を中心に、介護の基本的な考え方を講義する。 |
| ② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解 | 3 | <講義内容> ・学習と記憶に関する基礎知識、感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因、こころの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がこころに与える影響について理解を深める。加齢に伴う心理変化や喪失体験を学ぶことで、高齢者の生きがいづくりの支援を確認する。 |
| ③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 | 6 | <講義内容> ・人体各部の名称と動きに関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、こころとからだを一体的に捉える、利用者の様子の普段との違いに気づく視点についてポイントを確認し、理解する。 |
| (合計時間数) | 12 | |

| 科目番号・科目名 | (9) こころとからだのしくみと生活支援技術 | |
|------------------------------------|------------------------|---|
| 項目番号・項目名 | 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 |
| イ 生活支援技術の学習 ④ 生活と家事 | 6 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援について、事例を示して講義を行う。 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家事援助の必要性と技術、特に調理支援についてグループ検討で具体化し発表。その後、講師が講評。 |
| ⑤ 快適な居住環境整備と介護 | 6 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法を理解する。福祉用具の活用について、実物を見ることにより理解を深める。 |
| ⑥ 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・整容に関する基礎知識、整容の支援技術について、講義を行う。 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・整容に関する基本知識を学んだ上で、グループに分かれ、講師の指導のもと、衣服着脱介助の技術演習を行う。 |
| ⑦ 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援について、講義を行う。 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗に関する基本知識を学んだ上で、グループに分かれ、講師の指導のもと、体位変換、ベッド・車いす間の移乗をはじめとする移乗・移動の技術演習を行う。 |
| ⑧ 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援について、講義を行う。 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する基本知識を学んだ上で、グループに分かれ、講師の指導のもと、食事介助の技術演習を行う。 |
| ⑨ 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴・清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法について、講義を行う。 <p><演習実施方法></p> <p>入浴等に関する基本知識を学んだ上で、グループに分かれ、講師の指導のもと、清拭、入浴介助等の技術演習を行う。</p> |
| ⑩ 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法について、講義を行う。 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基本知識を学んだ上で、グループに分かれ、講師の指導のもと、おむつ交換等排泄介助の技術演習を行う。 |
| ⑪ 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法について講義を行う。 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠の重要性等の基本知識を学んだ上で、グループに分かれ、講師の指導のもと福祉用具の活用・ベッドメイク・シーツ交換の技術演習を行う。 |
| ⑫ 死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護 | 3 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うこころの理解、苦痛の少ない死への支援について、講義する。介護従事者として、家族へのケアや多職種間の情報共有の必要性を確認し、理解する。 |
| (合計時間数) | 51 | |

| | | |
|----------------------------|------------------------|---|
| 科目番号・科目名 | (9) こころとからだのしくみと生活支援技術 | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 |
| ウ 生活支援技術演習 ⑬ 介護過程の基礎的理解 | 6 | <講義内容> 介護過程の目的・意義・展開、介護過程のチームアプローチについて講義を行う。 <演習実施方法> 介護過程の目的等について、グループで事例検討を行い、介護支援計画を立案、発表を行う。講師が講評する。 |
| ⑭ 総合生活支援技術演習 | 6 | <講義内容> 総合生活支援技術演習（事例による展開）について講義を行う。 <演習実施方法> 事例から利用者の状態像を把握し、その後課題に沿った実技演習を行う。 |
| (合計時間数) | 12 | |

| | |
|------------|--|
| 使用する機器・備品等 | パソコン、プロジェクター 簡易浴槽、シャワーチェア、バスボード、ポータブルトイレ、車いす、杖各種、 ベッド、シーツ、枕、クッション、タオルケット、バスタオル、フェイスタオル、スプーン、 コップ、バケツ、洗面器、浴衣、衣類、おむつカバー、紙おむつ等 |
|------------|--|

| | | |
|----------------------|--|---|
| 科目番号・科目名 | (10) 振り返り | |
| 指導目標 | 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。 | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 振り返り | 2 | <講義内容> 研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点について講義を行う。 <演習実施方法> 初任者研修の全課程を振り返り、研修を通して学んだこと、習得したことについて、個人ワーク。また、グループディスカッションを通して再確認する。 |
| ② 就業への備えと研修修了後における事例 | 2 | <講義内容> 継続的に学ぶべきこと、研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例を示して、介護職員として日常的に自分を高める姿勢を持つことの重要性を確認する。 |
| (合計時間数) | 4 | |